

## 全国医学部長病院長会議 定例記者会見資料

「わが国の大学医学部（医科大学）白書 2010」について

説明：医学部（医科大学）の基本問題に関する委員会 委員長  
札幌医科大学医学部 細胞生理学講座教授 當瀬規嗣

本白書は、隔年で本委員会が全国の医学部・医科大学および附属病院に対して行ったアンケート調査をまとめて発表するものである。

今回は平成 22 年 10 月 1 日を基準日として、9 月から年末にかけて、アンケートを実施し、回答を回収した。なお、今回のアンケートの質問事項は白書の巻末に添付されている。

全国の全大学の動向を明らかにするため、以下の 6 つの章にまとめて質問を行い、回答を得た。

- 第一章 大学の評価体制・組織運営と法人化、大学の点検・評価
- 第二章 医学教育
- 第三章 卒前・卒後の臨床教育と研修
- 第四章 大学院と研究・専門医養成体制
- 第五章 大学附属病院
- 第六章 社会および地域への貢献

今回の結果の要点、注目点など

### 第一章

国公立の法人化に伴い、大半の国公立大学で大学運営全体に対する自己点検評価が定期的に行われ、大学運営の質の維持・向上に努めている。

教員評価も大半の大学で行っているが、これを人事・給与・昇進に反映させているのは半数程度である。これは、教員の教育・研究の自主権とのカラムから多くの大学で一定の躊躇がみられる。

### 第二章

学士編入学試験は三年次編入から二年次編入への変更が進み、廃止を検討する大学が増えた。わが国の医学部での学士編入学制度は、一定の役割を終えた観がある

モデルコアカリキュラムはほぼすべての大学で導入済みであり、医学教育の根幹をなしている。しかし、18歳人口減少の影響と思われる基礎学力の低下傾向が顕著となり、コアカリキュラムが「最低限のレベル」から「最終到達目標」に変貌しつつある。情勢の変化に対応したコアカリキュラムの変更が必要となる可能性を示している。

### 第三章

卒後臨床研修義務化以降、大学での卒前臨床実習の充実化が図られている。(クリニカルクラクシップの取り入れ、学外実習の推進)、しかし、大学の教員定数はむしろ削減の方向であり、教育に必要な人員は不足している。

大学での卒後臨床実習では独自の特色ある取り組みが多くなっていて、地域の病院との連携も密になっている。

### 第四章

卒後臨床研修制度導入の影響により、大学院の充足率は低下し続けている。結果として、研究者志望の医師は減少し、すでに、研究者不足が始まりつつある。日本発の医学研究論文の減少が危惧されている。

### 第五章

大学病院での医師の労働環境は、様々な取り組みが行われているが、悪化しており、オーバーワークが日常化している。医師数不足、臨床研修の充実などによる業務増大が原因として指摘されている

### 第六章

各大学から地域に精力的に医師派遣が行われているが、地域の医師不足には歯止めがかからない。依然として、臨床研修制度の導入に原因があると感じている大学が全体の8割を超えていることに注目すべきである。